

宮崎充保先生のご退職にあたって

宮崎充保先生は平成27年3月31日をもって、本学を定年によりご退職されます。先生の34年の長きにわたるご貢献に心より感謝し、本号を退職記念号として発行いたします。

先生は福岡県久留米市のご出身で、一橋大学経済学部、九州大学大学院文学研究科修士課程を修了後、九州大学文学部に助手として勤務されました。山口大学には昭和56年4月に教養部講師として着任され、昭和59年助教授、平成6年4月には教授に昇任されました。その後、平成8年4月に設置と同時に工学部感性デザイン工学科に移られ、平成13年4月経済学部を迎えられました。平成17年4月からは新設された観光政策学科の要として指導的役割を果たされました。英語学とりわけ英語表現論や翻訳論がご専門で、教育、研究、学部及び大学運営など様々な面において活躍され、経済学部はもとより山口大学の発展に寄与されました。

先生のご研究については、本年1月14日におこなわれた最終講義「コミュニケーションとしての翻訳」を受講させていただき、山本周五郎作品を新たな研究対象とし、その英訳に挑戦されていることを知りました。先生による至言「脳のextension」に適した黒板とチョークによる翻訳の実践的講義では、江戸時代を背景とする時代小説「つばくろ」を題材に、1語1語を苦心して紡ぎ出す翻訳の難しさの一端をご教授いただきました。作品の文体や臨場感、時代考証や全体のバランスを踏まえつつ文末表現の微妙な差異を表現するプロセスでは、異文化のAudienceに共感を持って評価し受容してもらえるかという不確実性も相まったドキドキ感があると説明されました。講義では、先生が翻訳された山本周五郎作品に共感した、1人のアメリカ人からの問い合わせがあったというエピソードを紹介されました。異文化の仮想の1人

に向けた「翻訳」の発信，そして「翻訳」の共有と共感の積み重ねこそが，コミュニケーションのローカルからグローバルへの展開において重要であると感じました。

教育においては一貫して学生のコミュニケーション力の向上や国際的視点の涵養に尽力されました。学部においては観光コミュニケーションやリーディングを，大学院経済学専攻では外国文献研究の講義を担当されました。また，山口大学における重要な取り組みの1つであるTOEICの活用や運営を担われました。TOEIC S&W TESTを学生が自ら「発信」する力を養うための目標になると考えられ，正課外にも学生を集めて指導をされていました。また，学生に対してだけでなく同僚教員に対しても弛まぬ努力と精進を促すべく，熱心に粘り強くご指導いただきました。1語1語を選びながら話される先生の語り口には，翻訳における1つの単語の重みを熟知された先生ならではのコミュニケーション術の要諦があるのだと拝察した次第です。

先生は学部や大学運営においてもご活躍され，学部の教務委員長をはじめ各種委員を歴任され，また，平成16年4月から4年間，大学全体の国際化の拠点である大学教育機構国際センター長の重責を担われました。

この度，定めによりご退職されますが，先生の長年のご尽力に心より感謝申し上げます。また，これからも先生との絆が末永く続きますよう切望するとともに，先生のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

平成27年3月31日

山口大学経済学部長 成 富 敬